

千木良の里 この町とともに生きていく ～地域からの力をもらい 地域の力になりたい～

津久井やまゆり園 地域支援部
若柳地区放課後等デイサービス事業所みらい 宮崎 剛志
地域生活支援課 葛西 直子
根小屋地区日中活動支援センターそよかぜ 内野 純子
寸沢嵐地区日中活動支援センターファンファン 福田 直子

1.はじめに

津久井やまゆり園は平成28年7月の事件により、地域とのつながりを一瞬にして失った。

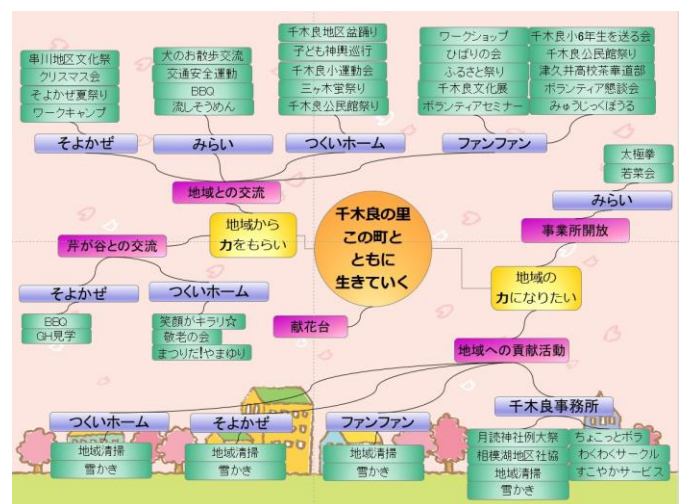
指定管理障害者支援施設としての津久井やまゆり園が、横浜市港南区芹が谷に仮移転した後、ここ相模原市緑区には、津久井やまゆり園地域支援部(以下、千木良事務所)が、障害のある方々も安心して地域生活を送ることが出来るよう、多角的に支えている。

千木良事務所の配下には、地域生活支援課(以下、グループホーム)が4ヶ所の共同生活援助事業を担い、寸沢嵐地区日中活動支援センターファンファン(以下、ファンファン)及び、根小屋地区日中活動支援センターそよかぜ(以下、そよかぜ)は生活介護事業を、若柳地区放課後等デイサービス事業所みらい(以下、みらい)は子ども達への支援を行っている。

あの日から3年かけて取り組んできたことを、サブタイトルの“地域からの力をもらい地域の力になりたい”をキーワードにして、地域との交流及び、地域への貢献活動、そして事業所開放とし、それぞれの事業所が取り組んできたことを写真と動画により紹介したい。また、月命日に設置する献花台についても触れていく。なお、一部を除き、使用した写真及び動画は、今年度撮影したものとなっている。

地域の事業所の方から、そして地域の住民の方々からの暖かい励ましと、法人職員の協力がなければここまでくることは出来なかった。津久井やまゆり園のことを気にかけていただき、協力し

ていただいていることに対して深く感謝し御礼申し上げます。



2.グループホーム

グループホームからは、千木良小学校運動会、千木良地区盆踊り大会、千木良小学校フェスティバルへの参加を通して、地域との交流の様子を紹介する。

(1) 千木良小学校運動会

事件以降、小学校の児童や、地域の方の気持ち、グループホームの利用者様の気持ちなどに配慮して、今まで行なっていた千木良小学校との交流は、ここ3年ほど、参加を見合わせていた。今年度に入り、千木良小学校校長より「ぜひ参加を」と声をかけていただき、新緑のまぶしいさわやかな風の吹く中、一緒に玉入れや徒競走などの一般競技に参加させていただいた。



3.ファンファン

ファンファンからは、地域への貢献活動として地域清掃と、地域との交流としてワークショップの様子を紹介する。

(1) 地域清掃

平成 25 年度より、週に 1 回、散歩コースのゴミ拾いを行っている。利用者様もゴミ拾いに行く、準備の段階から参加しており、散歩コースの道端に落ちているタバコの吸い殻や、空き缶等を積極的に拾っている。清掃や散歩を通して地域の方とも顔見知りになり「頑張ってるね」「今日も暑いね」等の声をかけてくれるようになった。夏には育てた野菜を頂くこともあり、お昼のお味噌汁に入れて皆で美味しく食べた。

(2) 千木良地区盆踊り大会

夏祭りを楽しみにしているグループホームの利用者様の、浴衣や甚平を着ていきたいという気持ちを大切に、千木良地区盆踊り大会に浴衣と甚平をきて参加した。

今までやまゆり園の納涼祭でたくさん踊ったことのある、キヨンのズンドコ節や、炭坑節を千木良地域の住民と一緒に踊り、笑顔で披露することが出来ていた。



(2) ワークショップ

ワークショップは、利用者様・地域の方・ボランティアさんとの交流を目的として平成 25 年度から始まった。平成 27 年度までは年に 2 回行い、平成 28 年度以降は年 1 回行っており、これまで 12 回実施している。

今回は、令和元年 10 月に実施した苔玉作りを紹介する。苔玉作りの講師を探すに当たり、日中のドライブ先である、鳥居原ふれあいの館(とりいばらふれあいのいえ)の館長に相談したところ、館長ご自身が講師になることを引き受けてくれた。当日は 18 名の参加があり、近隣事業所の藤野たんぽぽによるパン販売も行った。参加者は真剣な眼差しで講師の話しを聞き、分からないところがあると積極的に質問し、苔玉を完成させていた。

(3) 千木良小学校フェスティバル

グループホームの利用者様を千木良小学校より招待していただき、小学校の子ども達から昔ながらの手遊びやクイズをだしてもらい、子ども達との交流を一緒に楽しむことが出来た。





4.みらい

みらいからは、事業所開放として若菜会と太極拳教室の紹介と、地域との交流として犬たちとの散歩と相模湖地区民生委員とのふれあいを紹介する。

(1) 若菜会

若柳地区は相模湖プレジャーフォレストを擁する嵐山の麓一帯に広がる、大変広い地域となっている。若柳地区の高齢者サロン若菜会は、若菜会を開催する集会所に集まることが難しい方たちを対象にして、みらいの活動スペースの活用し、平成27年度から利用が始まり、これまで46回開催された。



(2) 太極拳教室

前述の若菜会の会員に、太極拳の師範の認定を受けた方がおり、教室を開きたいがみらいの利用は可能か相談があり、令和元年度から利用ははじまり、これまで12回開催された。



(3) 犬の散歩

みらいでは、放課後の活動の一環として、近隣の林間公園に遊びに行くことが多い。公園に行くと、犬の散歩をさせているグループがあり、子ども達が挨拶を交わすうちに犬に触らせてもらうようになり、更に、一緒に散歩をさせてもらえるようになった。クリスマスの時期になると、心ばかりのプレゼントを渡すとストラップ等のお返しをいただくなど、このような交流が3年ほど続いている。



(4) 相模湖地区民生員

相模湖地区民生委員より、一般的な生活介護等の通所事業所と、放課後等デイサービス事業所の活動時間帯が異なることから、子ども達の様子を知りたいとの働きかけがあり、長期休みとなる夏休みの期間を利用して、BBQと流しそうめんを企画していただき、準備から片付けまでを一貫して行ってくれている。





5.そよかぜ

そよかぜからは、地域交流としてそよかぜ夏祭り及び、串川地区芸能文化発表会を紹介する。

(1)そよかぜ夏祭り

平成25年のクリスマス会から近隣の栄光教会との交流が始まった。当時は栄光協会の聖歌隊によるコンサートを行い、翌年も同様であったが、クリスマスは教会では最も多忙な時期であるため、平成27年からはそよかぜ夏祭りとなり、栄光教会はボランティアとして模擬店や花火を担当していただき交流を図っている。

現在では、そよかぜの夏の恒例イベントとして、そよかぜの利用者様以外にも、みらいの子ども達や、地域の放課後等デイサービス事業所ちやれんじ倶楽部の子ども達にも参加するようになっていく。今年度で5回目を迎え、串川中学校の生徒や、自治会長、隣の長竹建材の社長や従業員も参加し、一緒に楽しめる時間となっている。



(2)串川地区芸能文化発表会

事業所の行事に地域の方々をお招きするだけでなく、そよかぜが、その先の地域に出て行くことを目標にした。串川地域センターで毎年開催されている芸能文化発表会に平成30年9月に出

演を申し込み、内容は、音楽療法士の小林先生と行うみゆうじっくぼうるで行ってきたこと発表する機会とした。串川地区の人々が快く受け入れてくれ、会場では手拍子や手話演奏した際は一緒に行ってくれるなど盛り上がりを見せていた。

そよかぜの地域との交流について、基盤となったものは地域で暮らす職員が勤務していることであるとする。串川芸能文化発表会の情報なども、職員からの情報提供により始まった。このように、地域に根差していく一歩はまずは住民の雇用も大切なことだと思われる。これからもそよかぜが根小屋の地で受け入れ続けてもらえることを念頭に職員も利用者様も一緒に交流を続けていきたい。



6.千木良事務所

千木良事務所からは、地域との交流として赤い羽根共同募金と津久井高校茶華道部について紹介する。また、ここで献花台について触れていく。

(1)赤い羽根共同募金

相模湖地区社協の呼びかけで、ファンファン・そよかぜの利用者様と、相模湖駅で赤い羽根共同募金運動を行った。近隣事業所のマーブリングハウスも参加しており一緒に募金活動を行った。当日は良い天気であったが、マーブリングハウスの利用者様と職員、そよかぜとファンファンの利用者様と職員、そして地区社協の職員とで、駅人口の八割は占めているようであった。



7.おわりに

令和元年11月17日に千木良地区の防災訓練があった。この地域では安否確認用の旗を外からよく見える場所に立てることになっている。このような避難訓練を定期的におこなっており、避難場所はグループホームから200mほどにある千木良小学校になる。日々の訓練で利用者様も落ち着いて避難することが出来きていた。令和元年10月16日に関東地方に上陸した台風19号は、相模原市緑区に大きな被害をもたらしたことは、マスコミも大きく取り上げているところであるが、私達もその当事者であった。津久井やまゆり園のグループホームで暮らす利用者様が避難することになり、数年前の大雪以来の非常事態となった。日頃から挨拶を交わし、はげまされ、つながっていることに感謝しながら、今回の台風の翌日も、津久井やまゆり園の職員が地元の方々と一緒に片付けを行っていた。

つらいこと、悲しいこと、楽しいこと、うれしかったこと、いろいろなことがこの3年間にあった。皆様の支えや励ましによりここまで来ることが出来たことを、心より感謝したい。地域の皆様にいただいた力をもとに、これからは地域の力になれるようがんばっていきたくと決意を新たにしている。

(2) 津久井高校茶華道部

津久井高校茶華道部は県立直営時代から津久井やまゆり園にボランティアに来ている。事件以降も津久井やまゆり園に、絵手紙を毎月送ってくれるなどの交流が続いている。2019年3月に、ファンファンを会場とし、3年ぶりに津久井高校茶華道部のOGと交流することが出来た。芹が谷園舎の利用者様も参加し、千木良の利用者様との久しぶりの再会や、お互いの成長を喜び合い、楽しいひと時を過ごすことができた。



(3) 献花台

毎月26日の月命日にはやまゆり園正門前に献花台を設置している。毎月多くの方が献花に訪れてくれることを、深く心から感謝している。また、月命日以外でも津久井やまゆり園に足を運び、そっと献花して下さる方もいる。令和3年に、新しい建物が出来る予定。献花台を設置している時、さまざまな想いがこみ上げることもあるが、新しい建物ができ、みんなが望む場所で、望む方と暮らせるという思いをいだきながらこの日を過ごしている。

